

「これからの学校教育の在り方に関するアンケート調査」結果

令和8年2月27日
第4回揖斐川町学校教育の在り方審議会

調査の概要

【調査目的】

○人口減少、少子高齢化、経済不況に伴う格差の拡大、デジタル化の進展など、社会に様々な変化や課題が生じている中で、揖斐川町の教育に対する住民の皆様の考えや意見を把握し、これからの学校教育の在り方を検討するための基礎資料とすることを目的として実施。

【調査・分析にあたって】

- 回答の比率は、その設問の回答数を基数（n）として算出した。したがって、複数回答の設問では、すべての比率を合計すると、通常100%を超えている。
- 比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。そのため、単数回答の場合であっても比率の合計が100%にならない場合がある。
- 本資料中の表、グラフ、本文で使われている選択肢の表現は、本来の意味を損なわない程度に省略している場合がある。

調査の概要

【回収結果】

- 回収結果は、下記のとおり。
- 教職員調査の有効回答率がやや低くなっている要因として、常勤でない等の理由で期間内に調査を実施することができなかった方がいることが考えられる。

区分	一般住民調査	小学生調査	中学生調査	教職員調査
配布数	2,000件	441件	416件	278件
回収数	1,062件 (うちWeb回答：244件)	438件	401件	215件
有効回答数	1,058件	436件	401件	215件
有効回答率	52.9%	98.9%	96.4%	77.3%

回答者の属性

- 一般住民調査の回答者の年齢は、以下のとおり。
- 保護者世代である<49歳以下>は、29.6%となっている。

【年齢】（一般住民）



（参考：一般住民の年齢別有効回答率）

区分	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
配布数	112件	202件	177件	272件	303件	318件	616件
有効回答数	49件	65件	70件	130件	151件	207件	381件
有効回答率	43.8%	32.2%	39.5%	47.8%	49.8%	65.1%	61.9%

回答者の属性

○一般住民調査の回答者の居住している小学校区は、以下のとおり。

【小学校区】（一般住民）



(参考：一般住民の小学校区別有効回答率)

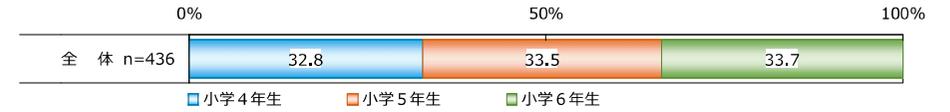
区分	揖斐小学校区	大和小校区	北方小学校区	清水小学校区	小島小学校区	谷汲小学校区	養基小学校区 (脛永地区)
配布数	316件	276件	288件	186件	478件	275件	181件
有効回答数	173件	153件	150件	88件	257件	141件	85件
有効回答率	54.7%	55.4%	52.1%	47.3%	53.8%	51.3%	47.0%

5

回答者の属性

○小学生調査の回答者の属性は、以下のとおり。

【学年】（小学生）



【通っている小学校】（小学生）



※小学生調査では、養基小学校に通っている池田町在住の児童を調査対象に含んでいる。

6

回答者の属性

○中学生調査の回答者の属性は、以下のとおり。

【学年】（中学生）



【通っている中学校】（中学生）



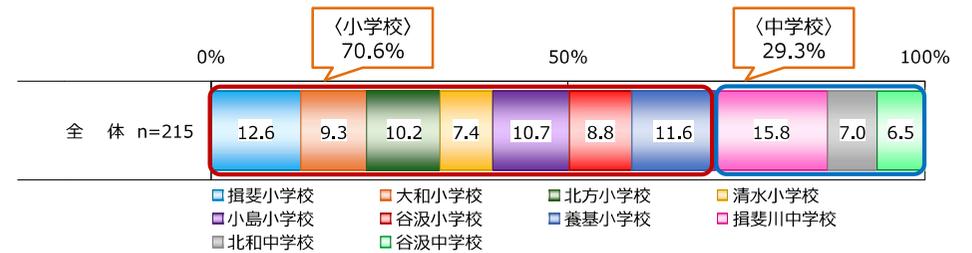
7

回答者の属性

○教職員調査の回答者の属性は、以下のとおり。

○〈小学校〉は70.6%、〈中学校〉は29.3%である。

【勤務先の学校】（教職員）



8

教育環境について

- 教育環境の変化については、一般住民、教職員ともにICTの進展に関する項目が多く選ばれている。
- 教職員の上位5位のうち、「先生がより一層一人ひとりに合った指導をできるようになった」「他の市町村の人や外国人など、価値観の異なる人と交流する機会が増えた」については、一般住民では低い割合となっている。

【子どもたちの教育環境の変化】（一般住民、教職員）

一般住民 (n=1,058)			教職員 (n=215)		
1位	同学年や先輩・後輩の人数が減り、友達をつくる機会が減った	46.1%	1位	ICTの活用など学習する手段が増え、学びの幅が広がった	91.6%
2位	ICTの活用など学習する手段が増え、学びの幅が広がった	45.4%	2位	スマートフォン等を勉強以外で使用する時間が長くなり、学習する時間が短くなった	54.0%
3位	班活動や体育の球技など、集団で活動する機会が少なくなった	35.2%	3位	先生がより一層一人ひとりに合った指導をできるようになった	48.8%
4位	スマートフォン等を勉強以外で使用する時間が長くなり、学習する時間が短くなった	34.8%	4位	他の市町村の人や外国人など、価値観の異なる人と交流する機会が増えた	47.9%
5位	行事や課外活動の幅が狭くなった	30.8%	5位	行事や課外活動の幅が狭くなった	39.1%
}			}		
6位	他の市町村の人や外国人など、価値観の異なる人と交流する機会が増えた	18.8%	6位	同学年や先輩・後輩の人数が減り、友達をつくる機会が減った	38.1%
}			}		
8位	先生がより一層一人ひとりに合った指導をしてくれるようになった	12.2%	8位	班活動や体育の球技など、集団で活動する機会が少なくなった	31.2%

9

教育環境について

- 子どもたちのために必要だと思う教育環境については、一般住民、教職員ともに「多くの仲間と関わりながら、切磋琢磨することができる環境」が他の項目に比べて高くなっている。
- きめ細かな教育環境や活躍の場、学習の方法の充実に関する項目も高い傾向にある。

【子どもたちのために必要だと思う教育環境】（一般住民、教職員）

一般住民 (n=1,058)			教職員 (n=215)		
1位	多くの仲間と関わりながら、切磋琢磨することができる環境	58.0%	1位	多くの仲間と関わりながら、切磋琢磨することができる環境	65.1%
2位	地域の人たちとの交流の機会が多く、地域全体で育むことができる環境	35.6%	2位	一人ひとりに先生の目が行き届き、きめ細かな指導を受けられる環境	47.9%
3位	一人ひとりに先生の目が行き届き、きめ細かな指導を受けられる環境	35.3%	3位	学校行事等で、一人ひとりが役割をもち、多くの活躍できる場がある環境	43.7%
4位	学校行事等で、一人ひとりが役割をもち、多くの活躍できる場がある環境	30.6%	4位	たくさんの先生による、多様な教育や指導を受けられる環境	40.9%
5位	様々な本やICTの機器などが充実し、学びたいことを深く学べる環境	30.4%	5位	様々な本やICTの機器などが充実し、学びたいことを深く学べる環境	28.4%
}			}		
8位	たくさんの先生による、多様な教育や指導を受けられる環境	16.6%	6位	地域の人たちとの交流の機会が多く、地域全体で育むことができる学校	27.4%

10

教育環境について

- 学校教育の中で子どもたちに育んでほしい能力としては、一般住民、教職員ともに他者との関係性に関する項目や知識・学力が高くなっている。
- 一般住民は道徳的判断力が、教職員は自己表現力が比較的高くなっている。

【学校教育の中で子どもたちに育んでほしい能力】（一般住民、教職員）

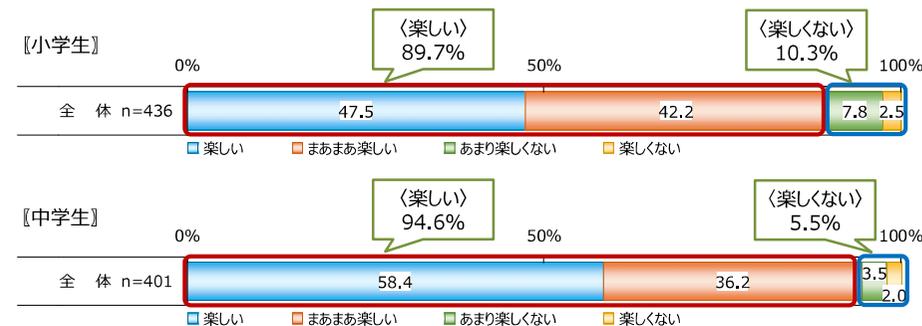
一般住民 (n=1,058)			教職員 (n=215)		
1位	他人を思いやることができる力	53.7%	1位	社会性や協調性	55.8%
2位	基本的な知識や基礎学力	53.6%	2位	基本的な知識や基礎学力	54.0%
3位	物事の善悪を判断できる力	47.5%	3位	他人を思いやることのできる力	45.1%
4位	社会性や協調性	42.5%	4位	困難なことに諦めず挑戦する力	35.3%
5位	困難なことに諦めず挑戦する力	31.7%	5位	自分の思いや考えを表現する力	34.0%
}			}		
6位	自分の思いや考えを表現する力	26.7%	6位	物事の善悪を判断できる力	28.8%

11

学校生活について

- 小学生、中学生ともに学校が「楽しい」という回答が90%前後を占めている。
- 一方、「楽しくない」は、小学生が10.3%、中学生が5.5%となっている。

【学校は楽しいか】（小学生、中学生）



12

学校生活について

○学校が「楽しい」と回答した人については、小学生、中学生ともに「友達と過ごすこと」「休み時間」が楽しいと思
ている割合が高い。

○学校が「楽しくない」と回答した人については、小学生、中学生ともに「授業」が楽しくないと思っている割合が高い。

【学校で楽しいと思うこと】（小学生、中学生）

小学生 (n=391)		
1 位	友達と過ごすこと	82.4%
2 位	休み時間	79.0%
3 位	クラブ活動	63.7%

中学生 (n=379)		
1 位	友達と過ごすこと	88.7%
2 位	休み時間	70.7%
3 位	学校行事（校外）	45.4%

【学校で楽しくないと思うこと】（小学生、中学生）

小学生 (n= 45)		
1 位	授業	75.6%
2 位	学校行事（校内） 先生と過ごすこと	31.1%
3 位	委員会や係活動	26.7%

中学生 (n= 22)		
1 位	授業	45.5%
2 位	学校行事（校内）	22.7%
3 位	授業以外のクラスでの活動 休み時間 友達と過ごすこと 委員会や係活動	18.2%

13

学校生活について

○学校で困っていることについて、具体的な困りごとに関する項目では、小学生は「授業中さわがしい、集中できな
い」が最も高く、次いで「登下校に時間がかかる」「給食が苦手」などの順となっている。

○また、中学生は「教室やトイレなど、学校が古い、汚い」が最も高く、次いで「授業がわからない」「校則が厳しい」など
の順となっている。

【学校で困っていること】（小学生、中学生）

小学生 (n=436)		
1 位	授業中さわがしい、集中できない	18.1%
2 位	登下校に時間がかかる	15.1%
3 位	給食が苦手	11.7%
4 位	友達関係	11.5%
5 位	教室やトイレなど、学校が古い、汚い 授業がわからない	9.2%

中学生 (n=401)		
1 位	教室やトイレなど、学校が古い、汚い	17.0%
2 位	授業がわからない	14.2%
3 位	校則が厳しい	10.0%
4 位	授業中さわがしい、集中できない	7.7%
5 位	自由がない 楽しい学校行事がない	7.0%

※順位は、「特になし」を除く具体的な困りごとに関する項目で算出したものである。

14

学校生活について

○学校で困っていることを学校別にみると、下記のとおり。

○特に谷汲中学校は、「教室やトイレなど、学校が古い、汚い」が75.6%と非常に高い割合となっている。

【学校で困っていること（学校別、最も高い項目）】（小学生、中学生）

小学生		
揖斐小 (n=64)	登下校に時間がかかる	21.9%
大和小 (n=57)	給食が苦手	15.8%
北方小 (n=53)	授業中さわがしい、集中できない	24.5%
清水小 (n=30)	給食が苦手	16.7%
小島小 (n=92)	授業中さわがしい、集中できない	19.6%
谷汲小 (n=43)	授業中さわがしい、集中できない	16.3%
養基小 (n=97)	授業中さわがしい、集中できない	25.8%

中学生		
揖斐川中 (n=239)	授業がわからない	12.6%
北和中 (n=117)	教室やトイレなど、学校が古い、汚い	18.8%
谷汲中 (n= 45)	教室やトイレなど、学校が古い、汚い	75.6%

15

学校生活について

○学校生活の中で大事だと思うことについては、小学生、中学生ともに仲間や友達に関する項目が高くなっている。

○小学生は相談できる環境や将来の夢といった自分に関する項目が、中学生はクラスの団結や学校行事などの周囲
の環境に関する項目が比較的高くなっている。

【学校生活の中で大事だと思うこと】（小学生、中学生）

小学生 (n=436)		
1 位	みんなで話し合いながら、勉強や活動ができること	59.2%
2 位	友達がたくさんできること	55.3%
3 位	気になることをもっと学ぶことができること	31.0%
4 位	困った時に先生に相談できること	25.7%
5 位	将来の夢を見つけること	24.8%
}		
6 位	クラスがまとまっていること	23.9%
}		
7 位	学校行事が盛り上がること	20.9%

中学生 (n=401)		
1 位	仲間と話し合いながら、勉強や活動ができること	67.3%
2 位	友達がたくさんできること	46.4%
3 位	クラスが団結していること	42.6%
4 位	学校行事が盛り上がること	34.2%
5 位	興味のあることを深く学ぶことができること	28.7%
}		
6 位	将来の夢を見つけること	24.4%
}		
7 位	困った時に先生に相談できること	17.7%

16

学校生活について

○これからどんな学校になってほしいかについては、小学生、中学生ともに「同じ学年の仲間が多くいて、友達がたくさんできる」及び「いろいろな学校行事やクラブ活動（部活動）がある」が高くなっている。

【これからどんな学校になってほしいか】（小学生、中学生）

小学生 (n=436)			中学生 (n=401)		
1位	同じ学年の仲間が多くいて、友達がたくさんできる	53.9%	1位	いろいろな学校行事や部活動がある	56.9%
2位	いろいろな学校行事やクラブ活動がある	51.8%	2位	同じ学年の仲間が多くいて、友達がたくさんできる	52.9%
3位	タブレットなどのデジタル機器を使う授業が多い	41.5%	3位	学校の建物が新しく、エアコンやトイレなどがきれいになっている	46.6%
4位	悩みを話せる人がいて、ゆっくりできる場所がある	41.3%	4位	違う学年の人と交流する時間がある	33.9%
5位	違う学年の人と交流する時間がある	39.4%	5位	登下校の時や学校にいる時に安心して過ごすことができる	32.2%
}			}		
6位	登下校の時や学校にいる時に安心して過ごすことができる	35.8%	6位	悩みを話せる人がいて、落ち着いて過ごすことができる場所がある	31.4%
}			}		
7位	学校の建物が新しく、エアコンやトイレなどがきれいになっている	33.9%	7位	ICTを活用する授業が多い	25.4%

17

学校生活について

○これからどんな学校になってほしいかを学校別にみると、下記のとおり。

○特に谷汲中学校は、「学校の建物が新しく、エアコンやトイレなどがきれいになっている」が86.7%と非常に高い割合となっている。

【これからどんな学校になってほしいか（学校別、最も高い項目）】（小学生、中学生）

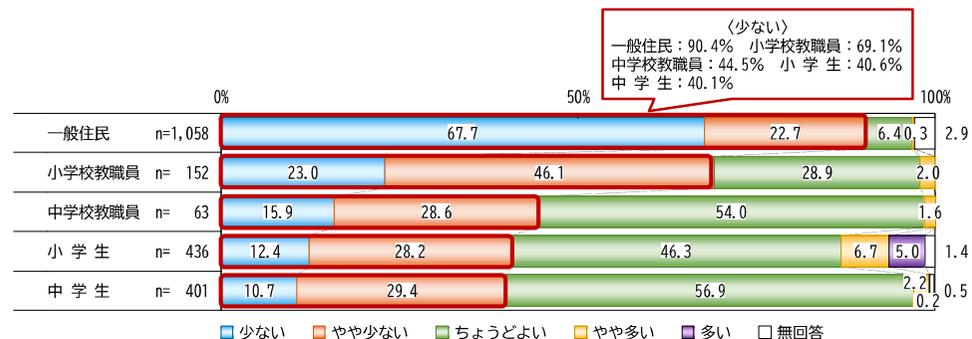
小学生			中学生		
揖斐小 (n=64)	同じ学年の仲間が多くいて、友達がたくさんできる	56.3%	揖斐川中 (n=239)	同じ学年の仲間が多くいて、友達がたくさんできる	54.8%
大和小 (n=57)	いろいろな学校行事やクラブ活動がある	57.9%	北和中 (n=117)	いろいろな学校行事や部活動がある	64.1%
北方小 (n=53)	同じ学年の仲間が多くいて、友達がたくさんできる	47.2%	谷汲中 (n=45)	学校の建物が新しく、エアコンやトイレなどがきれいになっている	86.7%
清水小 (n=30)	いろいろな学校行事やクラブ活動がある	73.3%			
小島小 (n=92)	同じ学年の仲間が多くいて、友達がたくさんできる	62.0%			
谷汲小 (n=43)	いろいろな学校行事やクラブ活動がある	48.8%			
養基小 (n=97)	同じ学年の仲間が多くいて、友達がたくさんできる	59.8%			

18

学校の規模について

○揖斐川町の小中学校の児童数・生徒数をどう感じるかについては、一般住民、小学校教職員は「少ない」が60%以上を占めている。一方、中学校教職員、小学生、中学生は「ちょうどよい」が最も高くなっている。

【児童数・生徒数についてどう感じるか】（一般住民、教職員、小学生、中学生）



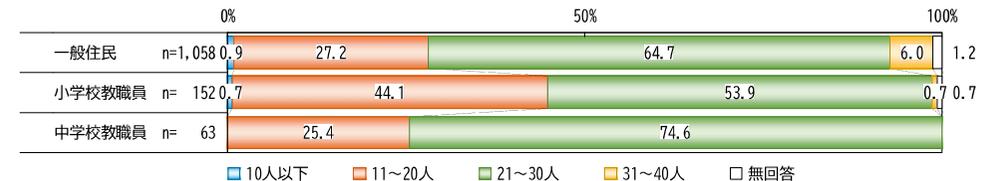
※一般住民調査では「住んでいる地区にある小中学校の児童数・生徒数についてどう感じるか」、教職員調査では「勤務している学校の児童数・生徒数についてどう感じるか」、小学生調査、中学生調査では「通っている学校の人数についてどう思うか」とたずねている。

19

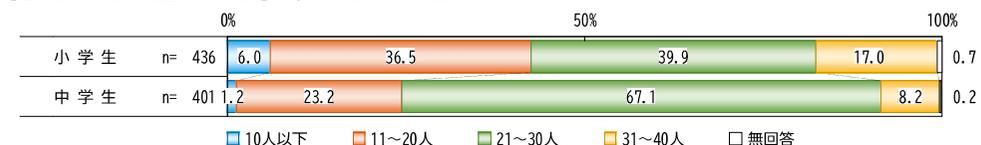
学校の規模について

○1クラスあたりの適切な児童数・生徒数については、いずれの調査においても「21～30人」が最も高く、次いで「11～20人」の順となっている。

【1クラスあたりの適切な児童数・生徒数】（一般住民、教職員）



【1クラスあたりの適切な人数】（小学生、中学生）



20

学校の規模について

○一般住民における1クラスあたりの適切な児童数・生徒数の回答理由は、下記のとおり。

【1クラスあたりの適切な児童数・生徒数の回答理由】（一般住民）

一般住民								
順位	10人以下(n=9)		11~20人(n=288)		21~30人(n=684)		31~40人(n=64)	
1位	一人ひとりに目が行き届きやすく、きめ細かな教育が受けられるから	66.7%	一人ひとりに目が行き届きやすく、きめ細かな教育が受けられるから	63.9%	同年年の様々な仲間と関わることで、社会性や協調性を身につけられるから	67.7%	同年年の様々な仲間と関わることで、社会性や協調性を身につけられるから	76.6%
2位	一人ひとりが意見を発表する機会や活躍する場が多くなるから	44.4%	子どもたちの人間関係が深まりやすく、クラスとしての一体感が生まれやすくなる	50.7%	クラスの中で互いに励まし合い、協力しながら成長できるようになるから	50.3%	集団における様々な役割分担を経験できるから	57.8%
3位	子どもたちの人間関係が深まりやすく、クラスとしての一体感が生まれやすくなる	33.3%	クラスの中で互いに励まし合い、協力しながら成長できるようになるから	44.4%	集団における様々な役割分担を経験できるから	46.3%	クラスの中で互いに励まし合い、協力しながら成長できるようになるから	46.9%

21

学校の規模について

○教職員における1クラスあたりの適切な児童数・生徒数の回答理由は、下記のとおり。

○一般住民、教職員ともに、「10人以下」「11~20人」は一人ひとりへのきめ細かな対応に関する項目が高く、「21~30人」「31~40人」は仲間との関わりや社会性の獲得、役割の経験に関する項目が高い傾向が見られる。

【1クラスあたりの適切な児童数・生徒数の回答理由】（教職員）

小学校教職員				中学校教職員					
順位	11~20人(n=67)		21~30人(n=82)		順位	11~20人(n=16)		21~30人(n=47)	
1位	一人ひとりに目が行き届きやすく、きめ細かな教育が受けられるから	86.6%	同年年の様々な仲間と関わることで、社会性や協調性を身につけられるから	82.9%	1位	一人ひとりに目が行き届きやすく、きめ細かな教育が受けられるから	93.8%	同年年の様々な仲間と関わることで、社会性や協調性を身につけられるから	70.2%
2位	一人ひとりが意見を発表する機会や活躍する場が多くなるから	68.7%	クラスの中で互いに励まし合い、協力しながら成長できるようになるから	63.4%	2位	一人ひとりが意見を発表する機会や活躍する場が多くなるから	75.0%	クラスの中で互いに励まし合い、協力しながら成長できるようになるから	53.2%
3位	子どもたちの人間関係が深まりやすく、クラスとしての一体感が生まれやすくなる	44.8%	様々な価値観に触れることができるから	59.8%	3位	子どもたちの人間関係が深まりやすく、クラスとしての一体感が生まれやすくなる	43.8%	集団における様々な役割分担を経験できるから	51.1%

※小学校教職員における「10人以下」「31~40人」は、回答が各1件のため省略。

22

学校の規模について

○小学生の1クラスあたりの適切な人数の回答理由は、下記のとおり。

【1クラスあたりの適切な人数の回答理由】（小学生）

小学生								
順位	10人以下(n=26)		11~20人(n=159)		21~30人(n=174)		31~40人(n=74)	
1位	先生が一人ひとりのことをしっかりとみられるから	69.2%	みんなで協力して勉強や運動ができるから	47.2%	人数が多いとクラスがにぎやかになるし、たくさんの友達ができるから	56.3%	人数が多いとクラスがにぎやかになるし、たくさんの友達ができるから	81.1%
2位	人数が多いと、うるさくなって授業に集中できないから	50.0%	いろいろな個性や考えを知ることができるから	32.1%	みんなで協力して勉強や運動ができるから	55.7%	みんなで協力して勉強や運動ができるから	63.5%
3位	みんなで協力して勉強や運動ができるから	46.2%	活動をしたり遊んだりするときにできることが増えるから	28.9%	友達と一緒にいられる時間が増えて、もっと仲良くなれるから	55.2%	友達と一緒にいられる時間が増えて、もっと仲良くなれるから	59.5%

23

学校の規模について

○中学生の1クラスあたりの適切な人数の回答理由は、下記のとおり。

○小学生、中学生ともに、いずれの人数においても「仲間と協力して勉強や運動ができるから」が高い傾向にある。

【1クラスあたりの適切な人数の回答理由】（中学生）

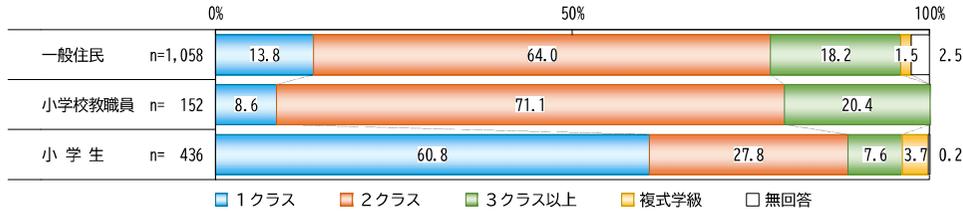
中学生								
順位	10人以下(n=5)		11~20人(n=93)		21~30人(n=269)		31~40人(n=33)	
1位	人数が多いと、うるさくなって授業に集中できないから	60.0%	友達と一緒にいられる時間が増えて、仲が深まるから	48.4%	仲間と協力して勉強や運動ができるから	59.9%	人数が多いとクラスがにぎやかになるし、たくさんの友達ができるから	72.7%
2位	仲間と協力して勉強や運動ができるから	40.0%	先生が目が一ひとりに行き届きやすくなるから	34.4%	人数が多いとクラスがにぎやかになるし、たくさんの友達ができるから	50.6%	仲間と協力して勉強や運動ができるから	66.7%
3位	いろいろな個性や考え方を知ることができるから	20.0%	友達と一緒にいられる時間が増えて、仲が深まるから	33.3%	先生が目が一ひとりに行き届きやすくなるから	46.1%	活動をしたり遊んだりするときに幅が広がるから	51.5%

24

学校の規模について

○小学校における1学年あたりの適切なクラス数については、一般住民、小学校教職員は「2クラス」が、小学生は「1クラス」が60%以上を占めている。

【小学校における1学年あたりの適切なクラス数】（一般住民、教職員、小学生）

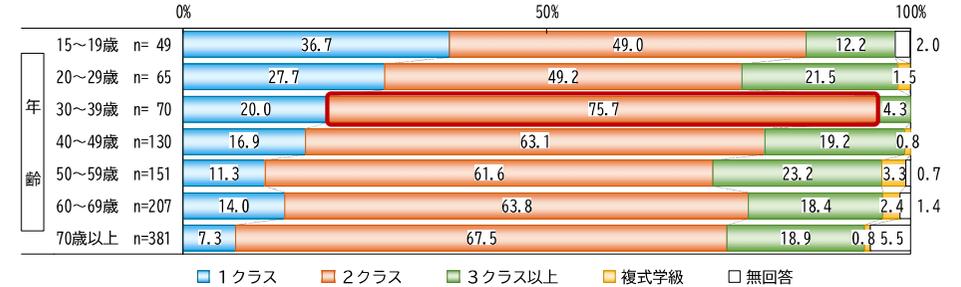


25

学校の規模について

○ただし、一般住民については、年齢別にみると若い世代ほど「1クラス」が高い傾向にあること、30～39歳は「2クラス」が他の年齢層に比べ高くなっていることが特徴としてあげられる。

【小学校における1学年あたりの適切なクラス数（年齢別）】（一般住民）



26

学校の規模について

○一般住民における、小学校の1学年あたりの適切なクラス数の回答理由は、下記のとおり。
 ○1クラスは一人ひとりへのきめ細かな教育に関する項目、2クラス及び3クラス以上はクラス替えのメリットに関する項目、複式学級は異学年との交流に関する項目が高くなっている。また、いずれのクラス数においても子どもたちの人間関係の構築に関する項目が最も高くなっている。

【小学校における1学年あたりの適切なクラス数の回答理由】（一般住民）

順位	一般住民			
	1クラス(n=146)	2クラス(n=677)	3クラス以上(n=193)	複式学級(n=16)
1位	同じクラスメイトと長期間一緒に過ごすことができ、人間関係が深まるから 71.2%	クラス替えにより、新しい人間関係を築く機会が増えるから 78.6%	クラス替えにより、新しい人間関係を築く機会が増えるから 88.6%	異なる学年との縦の交流が生まれやすくなるから 75.0%
2位	一人ひとりに目が行き届きやすく、きめ細かな教育が受けられるから 40.4%	子どもたち同士の関係に配慮したクラス替えができるから 45.3%	学級同士で切磋琢磨できる環境をつくることできるから 51.8%	多くの先生と関わる機会が増え、様々な教育を受けられるから 37.5%
3位	一人ひとりが意見を発表する機会や活躍する場が多くなるから 26.7%	学級同士で切磋琢磨できる環境をつくることできるから 40.9%	子どもたち同士の関係に配慮したクラス替えができるから 45.6%	クラス替えにより、新しい人間関係を築く機会が増えるから 25.0%

27

学校の規模について

○小学校教職員における、小学校の1学年あたりの適切なクラス数の回答理由は、下記のとおり。
 ○一般住民と同様、1クラスは一人ひとりへのきめ細かな教育に関する項目、2クラス及び3クラス以上はクラス替えのメリットに関する項目が高くなっている。

【小学校における1学年あたりの適切なクラス数の回答理由】（教職員）

順位	小学校教職員		
	1クラス(n=13)	2クラス(n=108)	3クラス以上(n=31)
1位	一人ひとりが意見を発表する機会や活躍する場が多くなるから 61.5%	クラス替えにより、新しい人間関係を築く機会が増えるから 84.3%	クラス替えにより、新しい人間関係を築く機会が増えるから 93.5%
2位	同じクラスメイトと長期間一緒に過ごすことができ、人間関係が深まるから 46.2%	子どもたち同士の関係に配慮したクラス替えができるから 74.1%	子どもたち同士の関係に配慮したクラス替えができるから 71.0%
3位	異なる学年との縦の交流が生まれやすくなるから 30.8%	学級同士で切磋琢磨できる環境をつくることできるから 50.0%	多くの先生と関わる機会が増え、様々な教育を受けられるから 64.5%

28

学校の規模について

- 小学生における、1学年あたりの適切なクラス数の回答理由は、下記のとおり。
- 1クラスでは、クラス替えがないことのメリットに関する項目が最も高くなっている。一方、2クラス及び3クラス以上では、クラス替えのメリットに関する項目が最も高くなっている。

【小学校における1学年あたりの適切なクラス数の回答理由】（小学生）

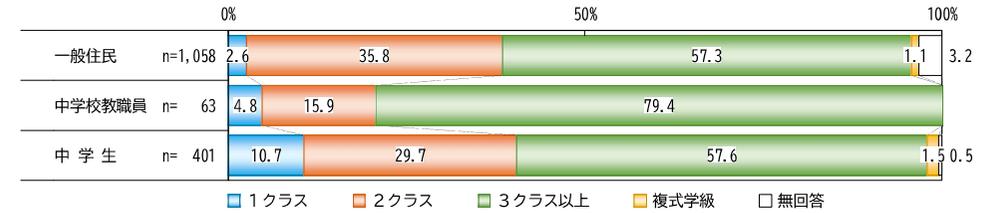
小学生					
順位	1クラス(n=265)	2クラス(n=121)	3クラス以上(n=33)	複式学級(n=16)	
1位	クラス替えがなく、友達との仲を深められるから 81.1%	クラス替えができて、たくさんの友達ができるから 80.2%	クラス替えができて、たくさんの友達ができるから 81.8%	違う学年の人と関わるが増えるから 81.3%	
2位	クラスが少ない方が、学年全体がまとまりやすいから 48.3%	他のクラスと競争したり、意見を発表し合ったりできるから 45.5%	他のクラスと競争したり、意見を発表し合ったりできるから 57.6%	クラス替えができて、たくさんの友達ができるから 56.3%	
3位	先生たちが一人ひとりのことをしっかり見てくれるから 23.4%	学校行事が盛り上がるから 44.6%	学校行事が盛り上がるから 54.5%	たくさんの先生と関わる事ができるから 25.0%	
				クラス替えがなく、友達との仲を深められるから	

29

学校の規模について

- 中学校における1学年あたりの適切なクラス数については、一般住民、中学校教職員、中学生いずれも「3クラス以上」が最も高くなっている。

【中学校における1学年あたりの適切なクラス数】（一般住民、教職員、中学生）

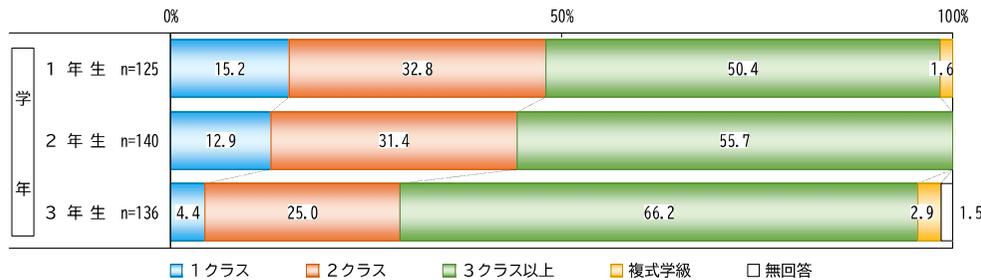


30

学校の規模について

- ただし、中学生については、学年別にみると高学年ほど「1クラス」および「2クラス」が低下し、「3クラス以上」が上昇していることが特徴としてあげられる。

【中学校における1学年あたりの適切なクラス数（年齢別）】（中学生）



31

学校の規模について

- 一般住民における、中学校の1学年あたりの適切なクラス数の回答理由は、下記のとおり。
- 小学校における1学年あたりの適切なクラス数の回答理由とほぼ同様の結果となっている。

【中学校における1学年あたりの適切なクラス数の回答理由】（一般住民）

一般住民					
順位	1クラス(n=27)	2クラス(n=379)	3クラス以上(n=606)	複式学級(n=12)	
1位	一人ひとりに目が行き届きやすく、きめ細かな教育が受けられるから 70.4%	クラス替えにより、新しい人間関係を築く機会が増えるから 74.9%	クラス替えにより、新しい人間関係を築く機会が増えるから 89.1%	異なる学年との縦の交流が生まれやすくなるから 66.7%	
2位	同じクラスメイトと長期間一緒に過ごすことができ、人間関係が深まるから 51.9%	子どもたち同士の関係に配慮したクラス替えができるから 44.3%	学級同士で切磋琢磨できる環境をつくることから 54.0%	クラス替えにより、新しい人間関係を築く機会が増えるから 50.0%	
3位	一人ひとりが意見を発表する機会や活躍する場が多くなるから 37.0%	学級同士で切磋琢磨できる環境をつくることから 40.1%	子どもたち同士の関係に配慮したクラス替えができるから 47.5%	多くの先生と関わる機会が増え、様々な教育を受けられるから 41.7%	

32

学校の規模について

○中学校教職員における、中学校の1学年あたりの適切なクラス数の回答理由は、下記のとおり。

【中学校における1学年あたりの適切なクラス数の回答理由】（教職員）

中学校教職員						
順位	1クラス(n=3)		2クラス(n=10)		3クラス以上(n=50)	
1位	一人ひとりに目が行き届きやすく、きめ細かな教育が受けられるから	100.0%	クラス替えにより、新しい人間関係を築く機会が増えるから	100.0%	クラス替えにより、新しい人間関係を築く機会が増えるから	86.0%
2位	異なる学年との縦の交流が生まれやすくなるから	66.7%	学級同士で切磋琢磨できる環境をつくることできるから	80.0%	子どもたち同士の関係に配慮したクラス替えができるから	70.0%
3位	学校行事や課外活動の幅が広がるから 同じクラスメイトと長期間一緒に過ごすことができ、人間関係が深まるから 一人ひとりが意見を発表する機会や活躍する場が多くなるから	33.3%	子どもたち同士の関係に配慮したクラス替えができるから	60.0%	学級同士で切磋琢磨できる環境をつくることできるから	50.0%

33

学校の規模について

○中学生における、1学年あたりの適切なクラス数の回答理由は、下記のとおり。

○小学生と同様に、1クラスではクラス替えがないことのメリットに関する項目が、2クラス及び3クラス以上ではクラス替えのメリットに関する項目が最も高くなっている。

【中学校における1学年あたりの適切なクラス数の回答理由】（中学生）

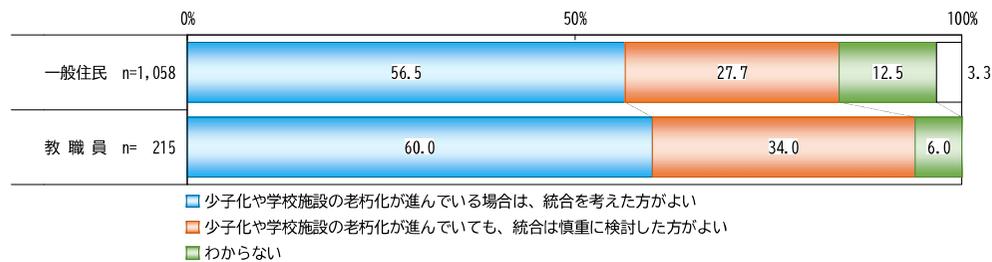
中学生								
順位	1クラス(n=43)		2クラス(n=119)		3クラス以上(n=231)		複式学級(n=6)	
1位	クラス替えがなく、友達との仲を深められるから	88.4%	クラス替えができて、たくさんの友達ができるから	57.1%	クラス替えができて、たくさんの友達ができるから	77.5%	違う学年の人と関わる機会が増えるから	66.7%
2位	クラスが少ない方が、学年全体がまとまりやすいから	44.2%	他のクラスと競争したり、意見を発表し合ったりできるから 学校行事が盛り上がるから	47.1%	学校行事が盛り上がるから	67.5%	クラス替えができて、たくさんの友達ができるから	33.3%
3位	意見を発表する時や学校行事の時などに一人ひとりが活躍できるから 先生の目が一人ひとりに行き届きやすくなるから	18.6%	クラスが少ない方が、学年全体がまとまりやすいから	31.1%	他のクラスと競争したり、意見を発表し合ったりできるから	55.0%	他のクラスと競争したり、意見を発表し合ったりできるから 学校行事が盛り上がるから その他	16.7%

34

学校の規模について

○小中学校の統合を実施する市町村が増えていることを踏まえて、統合についてどう思うかたずねたところ、一般住民、教職員ともに「少子化や学校施設の老朽化が進んでいる場合は、統合を考えた方がよい」が最も高くなっている。

【小中学校の統合】（一般住民、教職員）



35

学校の規模について

○統合を考えた方がよいと思うと回答した人のその理由は、一般住民、教職員ともに社会性や協調性の向上、大きな集団の中で生活するメリットに関する項目が高くなっている。

○また、一般住民はクラブ活動や部活動に関する項目、教職員は子どもたちの学習環境に関する項目も比較的高くなっている。

【統合を考えた方がよいと思う理由】（一般住民、教職員）

一般住民 (n=598)			教職員 (n=129)		
1位	多くの人と関わることで、社会性や協調性を高めることができるから	70.2%	1位	多くの人と関わることで、社会性や協調性を高めることができるから	77.5%
2位	児童数・生徒数が増えることにより、切磋琢磨する仲間が増えるから	62.4%	2位	児童数・生徒数が増えることにより、切磋琢磨する仲間が増えるから	70.5%
3位	少子化が進む中でやむを得ないと思うから	55.9%	3位	大きな集団の中で活躍する力を身につけられるようになるから 少子化が進む中でやむを得ないと思うから	51.9%
4位	大きな集団の中で活躍する力を身につけられるようになるから	54.5%	4位	先生の人数が増え、子どもたちが様々な教育を受けられるようになるから	45.7%
5位	クラブ活動や部活動が活発になるから	40.5%	5位	少人数授業や習熟度別の授業など、様々な形態での教育ができるようになるから	41.9%

36

学校の規模について

○統合を慎重に検討した方がよいと思うと回答した人のその理由は、一般住民、教職員ともに登下校の負担に関する項目や地域と学校のつながりに関する項目が高くなっている。

○また、一般住民は子どもたちの人間関係への影響に関する項目、教職員はきめ細かな教育に関する項目も比較的高くなっている。

【統合を慎重に検討した方がよいと思う理由】（一般住民、教職員）

一般住民 (n=293)			教職員 (n=73)		
1 位	通学距離や時間が長くなったり、通うのが困難になったりする家庭があるから	75.8%	1 位	通学距離や時間が長くなったり、通うのが困難になったりする家庭があるから	80.8%
2 位	身近な地域に学校がなくなり、学校と地域の関係性が希薄になる可能性があるから	60.4%	2 位	身近な地域に学校がなくなり、学校と地域の関係性が希薄になる可能性があるから	78.1%
3 位	今ある学校がなくなることで、伝統や文化が失われる可能性があるから	52.6%	3 位	今ある学校がなくなることで、伝統や文化が失われる可能性があるから	60.3%
4 位	子どもたちがこれまで築いてきた人間関係への影響が大きいから	37.2%	4 位	今の教育環境を大切にしたいから	34.2%
5 位	今の教育環境を大切にしたいから	25.9%	5 位	一人ひとりへのきめ細かな教育ができなくなる可能性があるから	30.1%

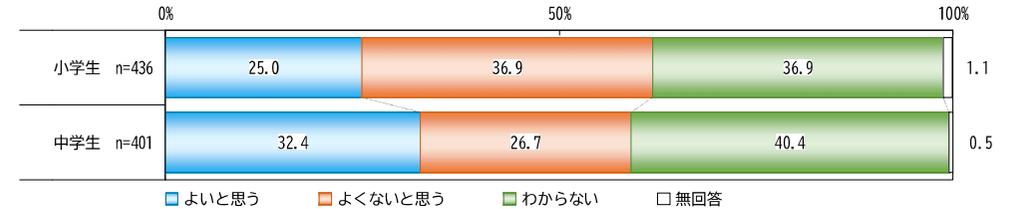
37

学校の規模について

○もし自分の通う学校が統合するとしたらどう思うかたずねたところ、小学生は「よくないと思う」及び「わからない」が36.9%、「よいと思う」が25.0%となっている。

○中学生は、「わからない」が40.4%と最も高く、次いで「よいと思う」が32.4%、「よくないと思う」が26.7%の順となっている。

【もし自分の通う学校が統合するとしたらどう思うか】（小学生、中学生）



38

学校の規模について

○地域における「学校」とはどういった場所かたずねたところ、「子どもたちの学びの場」が85.3%と最も高くなっている。

○次いで「子どもたちと地域の人の交流の場」が43.8%、「地域活動や交流の拠点」が31.9%、「地域の避難場所・防災拠点」が30.4%などの順となっており、住民にとって学校は地域と子どもたちをつなぐ拠点や防災の拠点としての役割を果たしていることがうかがえる。

【地域における学校とはどういった場所か】（一般住民）

一般住民 (n=1,058)		
1 位	子どもたちの学びの場	85.3%
2 位	子どもたちと地域の人の交流の場	43.8%
3 位	地域活動や交流の拠点	31.9%
4 位	地域の避難場所・防災拠点	30.4%
5 位	地域の子育て支援の拠点	27.1%

39